

## 〈身〉の医療研究会に期待します

小山 敦子 (近畿大学 医学部 内科学 心療内科部門)

満を持して2014年7月20日に〈身〉の医療研究会 第1回研究交流会が大阪で開催されました。その会で、恩師である中井吉英先生の「治療的自己における“身”の意義」という記念講演の座長をつとめさせていただいたことを大変光栄に感じております。ご講演の詳しい内容は、別途「〈身〉の医療研究会 研究会叢書」として電子出版されるご予定とお聞きしておりますので、そちらをご参照いただきたいのですが、中井先生が長年、心療内科医として歩いてこられた結果、到達された現在の境地がふんだんに散りばめられていまして、聴く者の胸を打つ内容でした。やはり医学であれ、芸術であれ、どの道でも高みを極められた方の思想というものはある種の宗教観と相まって、熟成していくものだということを目の当たりにさせていただきました。しかし、もちろんこれでよし、とされているわけではなくて、未だ道半ば、今日も治療的自己の研鑽に向けて日々努力されているお姿は私たちにも深い感銘を与え、かつ、私たちもうかうかしてはいられないぞ！ 日々前進しなければならないぞ！ という決意を新たにすきっかけとなりました。

また、深尾先生の会長講演にもありましたように、従来の心身相関理論に基づく心身医学から、身心一如の〈身〉としてとらえる医療へ、精神、身体、霊性を統合した第3段階の“魂身医学”へのパラダイムシフトを目指すことが今、求められており、それを啓蒙していく「〈身〉の医療研究会」の発足、発展に大いに期待いたします。

これを卑近な例として、私自身がサブスペシャリティとして取り組んで

おりますサイコオンコロジー・緩和医療を例にとって考えてみたいと思います。

サイコオンコロジーは1977年に米国のMemorial Sloan-Kettering Cancer Centerに設置された精神科サービス部門に端を発し、“がんが心に与える影響”と“心ががんに与える影響”の双方向性の研究・臨床実践を通じて、がん患者のQOLの向上、がん罹患率の減少、生存の延長をはかろうとする集学的学問体系です。一方、緩和医療は「生命を脅かす疾患に起因した諸問題に直面している患者とその家族のQOLを改善するアプローチであり、痛みや他の身体的、心理的、スピリチュアルな緒問題の早期かつ確実な診断、早期治療によって苦しみの予防と痛みからの解放を実現する」とWHOで定義されています。また、「心身医学」は、“病”をみるのではなく、“病をもっている人間”を診る、その人の心理社会的背景からその人を取り巻く環境を含めて、心身両面から、その患者が“病”とつきあいながら今後の人生をどうやって切り開いていくか、を一緒に考え、実践していく学問であるという立場をとってきました。ひとたび“病”にみまわれると、どこかが痛いというような身体的苦痛だけではなく、心理的な苦痛も、仕事や経済面での社会的苦痛も、そして自分の人生とどう向き合っていくかというスピリチュアルペインも加わります。このような苦痛が相互に関連しあって、「Total Pain (全人的苦痛)」をもたらす<sup>1)</sup>ので、これに対処するには、医療側も全人的医療を実践していく必要があります。そのTotal Painをもたらす代表的な疾患が「がん」であると考えられます(図1)<sup>2)</sup>。

## 全人的苦痛 (Total Pain)

がん患者の苦痛は多面的であり、全人的にとらえます

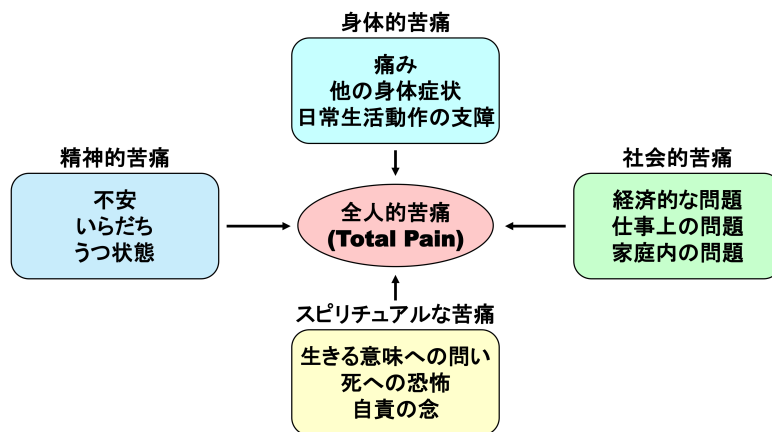


図1<sup>2)</sup>

この Total Pain に対峙する身体的、心理的、社会的、そして霊的アプローチこそがまさに 〈身〉の医療、“魂身医学”の原点であると考えます。今後自分の立場で、できるところから 〈身〉の医療の実践に励んでいきたいと思っております。そのためには志を同じくする仲間が必要です。相互に診療・研究業績の意見交換をし、教育・啓蒙していく場が不可欠です。その意味で、〈身〉の医療研究会の発足、発展に大いに期待しております。

## 文 献

- <sup>1)</sup>Saunders, D. C. (Ed.): The Management of Terminal Malignant Disease (2nd ed). London: Edward Arnold, pp. 232-241. 1984
- <sup>2)</sup>[http://www.kanwacare.net/formedical/materials/pdf/sb2013\\_pdf.pdf](http://www.kanwacare.net/formedical/materials/pdf/sb2013_pdf.pdf) 16-17 (Accessed 2015 Jan 12)

(特別講演 座長／司会)

編集・制作協力：特定非営利活動法人 ratic

<http://ratic.org>

